

Weekly Bulletin

2022-2023



RI会長
ジェニファー・ジョーンズ



IMAGINE
ROTARY

静岡東ロータリークラブ

会長/山下勝央 幹事/杉山輝光

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
山下勝央

第 3029 回例会 令和4年8月25日

《司会》 杉山輝光 君

《合唱》 我等の生業

《ソングリーダー》 畑田 整吾 君

《ゲスト》 龍谷大学教授 李相哲 様

《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

・お誕生日

8月 7日 畑田整吾君

8月 15日 生田陽一君

8月 20日 島 武志君

8月 22日 大脇順実君

8月 24日 新聞桂子君

・結婚記念日

・該当者なし

《会長挨拶要旨》 山下勝央 会長

本日は第3029回の例会です。本日は少し前にNHKで見た「最後の講義」という番組で印象に残った事を話したいと思います。講師は立命館APU大学長の出口治明さんでした。テーマは「なぜ女性の 社会進出が必要か?」でした。あの番組の内容とロータリークラブの会員拡大に関連があるといつも感じていました。

この30年間、アメリカのGDPは2.5%増、それに比べて日本のGDPは1%増、その牽引力となってきたのがGAFA(グーグル、アップル、フェイスブック(現・メタ)、アマゾン)と呼ばれる新産業でした。これらの企業が積極的に行ってきた経営は、ダイバーシティ経営と呼ば

れ、男性、女性、外国人、障がい者、健常者などの多様な人材が、その能力を最大限に発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出してきたといわれ、その最たるイノベーションの源はやはり男性と女性とのかけあわせになると纏めていました。

先日の稲森会員の入会をもってしても、女性会員は54人中の7名で、まだ13%です。世界の潮流のクオータ制にならない、女性会員比率25%を目指し、多様な活気あふれるクラブを目指していきたいと考えます。

《幹事報告》

・9月1日(木) 会員卓話 野田祐輔君「昆虫と子供たち」

・9月8日(木) 休例会

・9月15日(木) 来賓卓話 自衛隊静岡地方協力本部長 1等陸佐 武田恭一様「わが国を取り巻く安全保障環境と自衛隊の活動」

・9月22日(木) 会員卓話 松山剛之君「私と天然ガス」

・9月29日(木) 振替休例会

・9月30日(金) 新潟東RC交流10周年 記念夜間例

*10月以降は別紙「幹事報告」参照

《来賓卓話》

演題 「どうなる？朝鮮半島」

所属 龍谷大学

役職 教授

氏名 李相哲様

《卓話サマリー》

1. 旧朝鮮半島出身労働者（徴用工）問題
2. 慰安婦問題
3. レーダー照射問題
4. 旭日旗問題

《所感》

演題はなんでも話せるように設定していただけたようでした。そんな視線での所感にさせていただきます。

今回は朝鮮半島がどうなるかという大きな話ではなく、いま、朝鮮半島に関心をもっている日本の皆さんの、関心はこれから日韓関係どうなるか？ということでしょう。まずはそれについてお話しします。

日韓の間には、旧朝鮮半島出身労働者（徴用工）問題、慰安婦問題、レーダー照射問題、旭日旗問題など様々な問題を抱えています。そのなかでも、一番厄介な、解決を急ぐ問題は徴用工問題。こちらは、法的側面と政治的側面がありますが、いずれも、日本ができることはなく、韓国が解決すべき問題です。

この問題は、韓国大法院（日本の最高裁に相当）から支払い命令が出た後、日本の三菱重工の財産を差し押さえ、現金化手続きに入っていますが、現金化された場合、日韓関係はほぼ破綻状態になるので韓国も慎重になっています。そもそもこの問題は、韓国で如何なる判断がくだされても、日韓の間に締結された 1965 年の請求権協定に基づいて処理すべきであります。1980 年にウィーンで締結した国際条約で、国内の司法判断が国家間の条約に抵触する場合は、国家間の条約を優先すると約束したものです。韓国もこの条約に署名しました。尹氏は、この条約を尊重すると表明すればよい。さらに、政治的には尹大統領は、被害者の救済は

韓国政府が責任をもってやるとはっきりと表明、政治判断を下せばよい。しかし、問題は、尹氏に対する支持率が低迷。いまの状況では意欲はあってもなかなか難しいのではないのでしょうか。



日本では日韓関係改善に意欲的な尹氏に助け舟を出す必要があるという主張もあるが、一時的に対立をさけるために、中半端な妥結をすべきではありません。今度こそ、徹底解決を図るべきです。それでも日本が何もすべきではなく、何もできないかというところではありません。日本が 2019 年 8 月に韓国をホワイト国リストにから削除した措置を見直すことは可能です。日本企業にも利益になるはずですよ。

それから、韓国の被害者が要求する「謝罪」については、これまでの歴代政権の歴史問題に関する立場を堅持すると表明すればよい。これも特に難しいことはありません。

徴用工問題さえ、解決できれば、慰安婦問題は、政府間合意があるので、その合意ののっとなってやればよいはずですよ。

レーダー照射問題は、韓国はすでに、文在寅政権が打ち出したとされる「日本の哨戒機が 2 度以上警告を無視すればレーダー照射してもよい」という方針を見直す方針を明らかにしています。

旭日旗問題も軍当局の間では解決しているのではないのでしょうか。今年の日本の観艦式に韓国が参加することになっていると聞いています。

日韓問題は、時間がかかるだろうし、解決が難しい問題ばかりだが、一つずつ片付けようとする、また 5 年も、10 年もかかるのではないのでしょうか。

尹氏も、個別に解決を図るのではなく、包括的な解決を

望んでいると常々言ってきたので、乱麻を鋭い刀でバサッと切るように切り落とす勇気が日韓ともに求められているはずです。

《スマイル報告》

伊藤洋一郎君（皆出席の御礼）

高山 正雄君（皆出席の御礼）

佐橋 徹君（皆出席の御礼）

新聞 桂子君（皆出席の御礼）

高田 雅司君（皆出席の御礼）

栗木 義彦君（お誕生日の御礼）

由利 和士君

- ・月18日入会させていただきました。わからないことばかりですがご指導よろしくお願いします。

森下登志美君

- ・李相哲先生を一年越しにお呼びすることが出来ました。大変興味の沸くお話をいただきありがとうございます。

川口 尚宜君

- ・待ちに待った李先生の卓話、本当に楽しみにしておりました。静岡に来てくださったことに感謝してスマイルします。

佐野 哲一君

- ・如何メーカーシップの努力をしたかの証が皆出席年数となるとなれば、20年くらい前にはメーカーシップ方法が「休む前後一週間のうちに他のクラブにビジターフィー3000円を払って参加30分以上在籍すること」とされた時期を過ごされた先輩諸氏の「皆出席賞」は価値あるもので、近頃のやり方での賞は無に等しく100%出席が当然で、それを欠くことは会員資格返納に値すると思えつつお礼のスマイルをします。

（会報作成 藪崎 忍）